

2020年11月11日 いちゅい具志川じんぶん館 (Web配信併用)



高齢者施設における新型コロナウイルス感染症の 感染対策、発生時の初期対応

沖縄県立中部病院 感染症内科
横山 周平

ウェブ参加の方へ

いまからお話する内容は

新型コロナウイルス感染症が発生した高齢者施設における感染対策 沖縄県立中部病院感染症内科

第3版・2020年9月15日

を基にしております。

ウェブ上に公開されておりますので、

参考にしてください。

新型コロナウイルス感染症が発生した高齢者施設における感染対策

沖縄県立中部病院感染症内科

本指針は、高齢者施設において新型コロナウイルスの感染者が確認された場合に求められる感染対策の考え方を示すものです。感染者については、原則として入院措置となりますが、濃厚接触者の入居者へのケアを適切な感染対策のもとで継続していく必要があります。

ただし、それぞれの施設における医療資源や人員配置には違いがあると考えられますので、あくまで目安としていただき、施設ごとの状況に応じて具体的な対応を検討いただければと思います。

今日のお話

1. 平時からの感染対策
2. 新型コロナウイルス感染症が発生した施設における
初期対応、感染対策
3. 実際に新型コロナウイルス感染症が発生したときの
シミュレーション
(施設職員が新型コロナウイルス感染症と判明した場合)

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 職員の健康チェック

1. 勤務前に健康チェックを行う

すべての職員に対して、勤務前に健康チェックを確実に行う。

どんなに軽い症状であっても「風邪をひいたかも」と思ったら新型コロナウイルス感染症を疑って、速やかに仕事を休む。必要に応じて医療機関を受診する。

※新型コロナウイルス感染症の症状の例（実際は多彩で、症状がすべて出るとは限らない）

発熱、咳、のどの痛み、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ、息切れ、食欲低下、頭痛、味覚異常、嗅覚異常

2. 職員の欠員が急遽発生した場合の対応をあらかじめ考えておく

体調不良や濃厚接触者のために職員が業務を休むことになった場合を想定し、

必要不可欠な業務と2週間程度先延ばしにできる業務を整理しておく。

また、欠員が生じた場合の職員の補充、休養を余儀なくされた職員に対する給与や補償についてもあらかじめ決めておく。

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 職員の対応

1. 勤務中はサージカルマスクを着用する

感染した職員が無症状または症状が出始める前の状態で勤務していることもあり、本人が気づかないうちに感染を広げてしまう可能性がある。職員からの飛沫感染を防ぐ目的で、**勤務中は常にサージカルマスクを着用して業務にあたる。**

2. 人が集まる共有エリアは、いつも風通しを良くしておく

「定期的に換気」ではなく、「**常に少しだけ換気**」を心掛ける。たとえば、食べ物（線香）の匂いが残るようであれば、室内の換気が悪いと言える。

3. 高頻度接触面は清掃・消毒を頻回に行う

施設内で共有している手すり、ドアノブ等の高頻度接触面について、**アルコールや界面活性剤含有のクロスを用いて、1日3回以上の清掃・消毒を行う。**

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 利用者への対応①

1. 介護サービス利用中はサージカルマスクを着用する

無症状の場合や高齢者が軽微な症状を訴えることができない場合がある。

可能であれば介護サービス利用中は常にサージカルマスクを着用するよう求める。

ただし、嘔吐した際に吐物による窒息などのリスクを考慮し、マスク着用への可否は慎重に判断する。

2. 食事時の感染対策に気を配る

マスクを外すタイミングである食事は集団感染発生のリスクである。テーブルにアクリル板を設置したり、距離をあけて食事をするようにする(2m以上が望ましい)。

食事をとるスペースは風通しをよくしておく。

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 利用者への対応②

3. 送迎車内は窓を開けて風通しをよくしておく

送迎車内の窓を閉め切ってしまうと、ウイルスを含む小さな飛沫の濃度が高まる。
車内の複数個所の窓を開けて風通しをよくしておく。

4. 施設利用者の情報を整理しておく

施設利用者が体調不良を訴えたり、新型コロナウイルス感染症に罹患したときなど
医療機関を受診する場合に必要な情報を最新の状態に更新しておく
(氏名、住所、連絡先、かかりつけ医や既往歴・服薬内容、キーパーソンなど)。

ケアマネージャーの連絡先、他の施設を併用利用していないかも確認しておく。

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 施設全体の対応①

1. 職員の体調不良が発生したときの施設内連絡体制の構築

勤務開始時や勤務中に職員が体調不良を感じたときの連絡体制を構築しておく。併せて、職員の体調不良のために生じた欠員による業務調整や人員の補充は誰がどのように行うのかを決めておく。

2. 必要な感染防護具を用意しておく

新型コロナウイルス感染症の対応のために必要な感染防護具が十分な量を確保できているか確認しておく。職員が感染防護具を使用するタイミングや着用・脱衣の方法を習得しているかも確認する。

3. 近隣施設との情報ネットワークの構築・確認

近隣の医療機関や行政等と新型コロナウイルス感染症に関連する疑問を相談できる関係を構築しておく。

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 施設全体の対応②

4. 新型コロナウイルス感染症に関して、職員への教育を行う

新型コロナウイルス感染症に関する基本的知識や感染対策、施設の体制などを平時から職員へ教育する。

教育コンテンツの例

- 標準予防策やユニバーサルマスク
- 環境清掃のタイミングや方法
- 消毒液の作り方や保管方法
- 換気の方法
- 感染防護具を使用するタイミング
- 感染防護具の着衣、脱衣の方法
- 職員が体調不良を感じたときの連絡先と対応
- 職員の同居家族が新型コロナウイルス感染症にかかったときの連絡先と対応
- 勤務調整の担当者と人員補充の方法
- 施設内で新型コロナウイルス感染症が発生したときのシミュレーション

高齢者施設での平時からの感染対策(まとめ)

1. 施設内の共有スペースを換気
2. 環境清掃(1日3回以上)
3. こまめに手洗いを行う
4. 食事の際は特に要注意
5. 健康チェックと連絡体制の整備
6. ユニバーサルマスク
7. 感染対策防護具の備蓄
8. 職員への教育(可能ならばシミュレーションも実施)
9. 近隣施設との情報ネットワークの構築・確認

今日のお話

1. 平時からの感染対策
2. 新型コロナウイルス感染症が発生した施設における
初期対応、感染対策
3. 実際に新型コロナウイルス感染症が発生したときの
シミュレーション
(施設職員が新型コロナウイルス感染症と判明した場合)

施設内で感染が判明したときの初期対応①

1. 施設サービスの継続／中止・業務縮小の検討

職員・利用者の中で感染がどこまで拡大しているか全体像が把握できるまでは、**施設サービスの提供を中止することも検討する**。必要に応じて保健所へ相談する。

2. 濃厚接触者の判定

最初に判明した検査陽性者が必ずしも感染の発端者とは限らない。感染者の行動と濃厚接触の程度を評価し、接触の程度を層別化する。最も濃厚に接触した者は検査を受けていただく。**濃厚接触者の範囲は保健所や感染対策専門家と相談する**。

濃厚接触者が入居施設利用者であった場合、適切な感染防護具を用いたケアを行えるよう、①感染防護具の調達、②感染防護具の使用法についての職員への教育も合わせて行う。

濃厚接触者の判定

高齢者施設における感染連鎖を阻止する上では、濃厚接触者を適切にリストアップすることが重要である。このリストを基に**職員の就業制限の範囲、検査対象の範囲**を保健所と協議することができる。

濃厚接触者の考え方の項目に記載されている「適切な感染防護具」のうち最も重要なものが「**マスクを着用しているかどうか**」である。
職員、利用者とも平時からサージカルマスクを着用しておくことが重要である。

マスクを着用することができない利用者をケアする場合、**飛沫が発生する処置やケアを行う場合は職員の目の防護具（アイゴーグルまたはフェイスシールド）を着用することが望ましい。**

医療・介護現場におけるリスク評価と対応

		患者や施設入居者	
		マスクなし	マスクあり
医療・ 介護 従事者	マスクなし	高リスク 最終曝露日より14日間の就労制限	中リスク 最終曝露日より14日間の就労制限
	目の防護具なし	中リスク 最終曝露日より14日間の就労制限	低リスク 健康チェックを継続
	ガウンなし	低リスク 身体密着あるときは中リスク	低リスク 身体密着あるときは中リスク
	すべて着用	低リスク	低リスク

濃厚接触者リストの例

時、場所、人、マスク着用状況を聞き取り、記録しておく。

平時から利用者が他のどの施設を併用利用しているかをあらかじめ把握しておく。

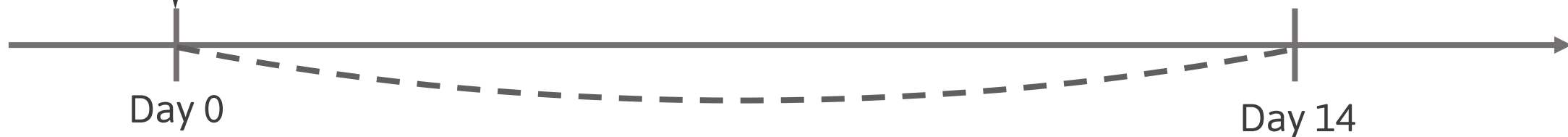
日時	患者のマスク着用	曝露者情報							
		氏名	ふりがな	生年月日	住所	電話番号	マスク着用	備考	
10月18日	有	1	沖縄 太郎	おきなわ たろう		那覇市●●●	000-0000-0000	有	送迎車内で一緒
		2	沖縄 花子	おきなわ はなこ		浦添市▲▲▲	111-1111-1111	なし	食事介助を担当
		3	琉球 次郎	りゅうきゅう じろう		うるま市xxx	222-2222-2222	有	10/17から発熱
		4	琉球 三郎	りゅうきゅう さぶろう		南城市▲▲	333-3333-3333	なし	○×デイケアを併用
		5							
		6							

就業制限・自宅療養期間の考え方

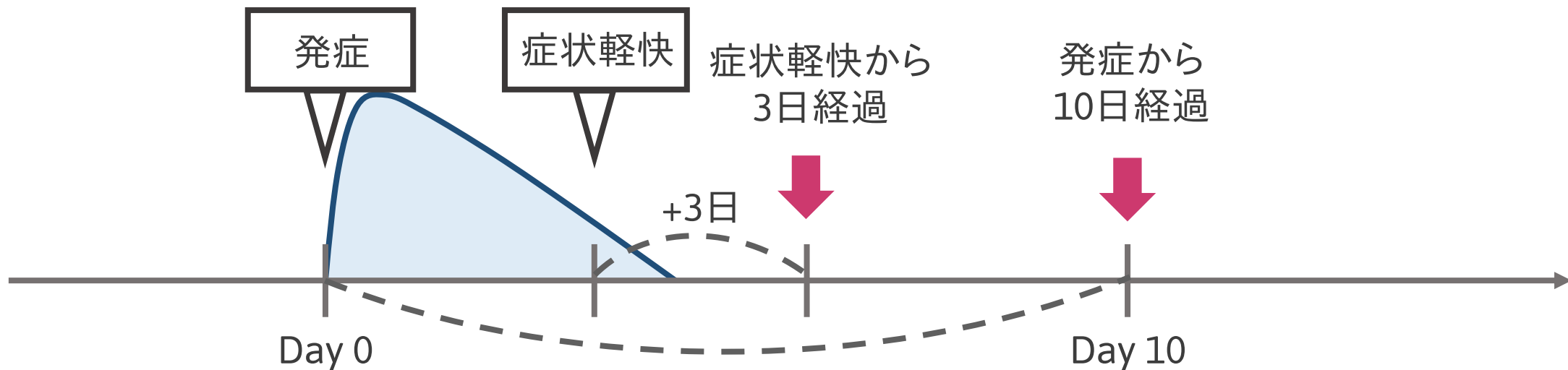
A. 症状がない濃厚接触者 = 最終曝露日から14日間

最終曝露

(※新型コロナウイルス感染症の潜伏期間が最大14日であるため)



B. 感染管理を強化した期間中に症状が出た者
= 症状軽快から3日が経過 + 発症から10日が経過



施設内で感染が判明したときの初期対応②

3. 施設内ゾーニングと濃厚接触者や有症状者への対応

発熱や咳などの症状がない場合でも、濃厚接触者と判定された入居者に対してはできるだけ個室で療養とする。個室が確保できないときは、**ベッド周囲のカーテンを閉め、他の入居者との間に衝立を置く、風向きに注意しながら換気を行う、などの飛沫感染対策を行う。**

食事についても、できるだけ個室で行う。ただし、介助する人員が十分でない状況では、症状のない入居者に限って共有エリアで食事介助を行うことも検討する。

可能であればトイレは専用とする。それができない場合にも、できるだけ指定されたトイレを使用するように求めて、**不特定多数が同一のトイレを使用することがない**ようにする。

濃厚接触者または有症状者の入居者の飛沫感染対策の感染防護具

着用

ポイント①
シールドマスク
→キャップ
の順に着ける



ポイント②
手袋でガウンの袖を覆う

脱衣

①ガウンと手袋は一緒に、裏返ししながら脱ぐ。



ガウンの表面をつかみ、



首のうしろ部分をちぎる。



裏が表になるように、



素手で表にふれないように



小さくまとめて、



捨てる。

②手指衛生 ③キャップ→シールドマスクの順に
顔に触れないように外す。 ④手指衛生



②と④の手指衛生忘れずに！ 顔に触れない！ 丁寧に手順通り脱ぐ！

※図ではアイシールド付きマスク（シールドマスク）を使用していますが、マスクとゴーグルまたはフェースシールドの組み合わせも同様です。

施設内で感染が判明したときの初期対応③

4. 環境清掃

アルコール(濃度70%以上)あるいは0.05%の次亜塩素酸ナトリウム、有効な界面活性剤を含有するクロスを用いて、1日3回以上の清掃、消毒を行う。特に感染が判明した人の周囲の高頻度接触面を拭う。汚染が疑われる場所の環境清掃を行うときは、手袋、サージカルマスク、ガウン、フェイスシールド(またはアイゴーグル)を着用する。

高頻度接触面の例

- 共有スペースの机、椅子
- テレビのリモコン
- ドアノブ
- 廊下の手すり
- 電気のスイッチ
- トイレ周辺環境

0.05%以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方



- 【使用時の注意】
- ・換気をしてください。
 - ・家事用手袋を着用してください。
 - ・他の薬品と混ぜないでください。
 - ・商品パッケージやHPの説明をご確認ください。

以下は、次亜塩素酸ナトリウムを主成分とする製品の例です。
商品によって濃度が異なりますので、以下を参考に薄めてください。

(プライベートブランド)

メーカー (五十音順)	商品名	作り方の例
花王	ハイター キッチンハイター	水 1L に本商品 25mL (商品付属のキャップ 1 杯) [※] <small>※次亜塩素酸ナトリウムは、一般的にゆっくりと分解し、濃度が低下していきます。購入から3ヶ月以内の場合は、水 1L に本商品 10ml (商品付属のキャップ 1/2 杯) が目安です。</small>
カネヨ石鹼	カネヨブリーチ カネヨキッチンブリーチ	水 1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
ミツエイ	ブリーチ キッチンブリーチ	水 1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)

ブランド名 (五十音順)	商品名	作り方の例
イオングループ (トップバリュ)	キッチン用漂白剤	水 1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
西友 / サニー / リヴィン (きほんのき)	台所用漂白剤	水 1L に本商品 12mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
セブン&アイ・ ホールディングス (セブンプレミアム ライフスタイル)	キッチンブリーチ	水 1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)

洗剤に含まれる界面活性剤で新型コロナウイルスが効果的に除去できます

試験で効果が確認された界面活性剤

- ▶ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム (0.1%以上)
- ▶ アルキルグリコシド (0.1%以上)
- ▶ アルキルアミンオキシド (0.05%以上)
- ▶ 塩化ベンザルコニウム (0.05%以上)
- ▶ 塩化ベンゼトニウム (0.05%以上)
- ▶ 塩化ジアルキルジメチルアンモニウム (0.01以上)
- ▶ ポリオキシエチレンアルキルエーテル (0.2%以上)
- ▶ 純石けん分 (脂肪酸カリウム) (0.24%以上)
- ▶ 純石けん分 (脂肪酸ナトリウム) (0.22%以上)

※ 新型コロナウイルスに、0.01~0.2%に希釈した界面活性剤を20秒~5分間反応させ、ウイルスの数が減少することを確認しました。詳細はNITEウェブサイトをご覧ください。

https://www.nite.go.jp/information/koronat_aisaku20200522.html

※ これ以外の界面活性剤についても効果がある可能性があり、さらに確認を進めています。

施設内で感染が判明したときの初期対応④

5. 感染防護具、人員の調整、業務調整、外部からの看護師応援要請

「新型コロナウイルス感染症に係る介護サービス事業所等に対するサービス継続支援事業」の活用（手続きの方法など、詳しくは、沖縄県子ども生活福祉部高齢者福祉介護課へ問い合わせてください。）

- 消毒薬、フェイスシールド、ガウンなどの衛生機材の購入
- 入居者ごとの体温計の購入費用
- 事業継続に必要な人員確保のための費用
- マスク、ガウン、アイゴーグル、フェイスシールドなどの個人感染防護具、アルコールなどの消毒剤の不足分についても県に相談可能

今日のお話

1. 平時からの感染対策
2. 新型コロナウイルス感染症が発生した施設における
初期対応、感染対策
3. 実際に新型コロナウイルス感染症が発生したときの
シミュレーション
(施設職員が新型コロナウイルス感染症と判明した場合)

施設職員が新型コロナウイルス感染症と判明した場合

- 新型コロナウイルスに感染した職員から連絡がありました
 - 職員に対して何を確認しますか？
- 施設職員が陽性となりました
 - 高齢者施設の職員が陽性となった旨をどこに連絡しますか？
 - 陽性の報告以外に、何を相談しますか？(ヒト、モノ、感染対策指導)
- 施設職員が陽性となりました
 - 職員に対して行うことは何がありますか？
 - 利用者へ行うことは何がありますか？

施設職員が新型コロナウイルス感染症と判明した場合

- 新型コロナウイルスに感染した職員から連絡がありました
 - 職員に対して何を確認しますか？

感染が確定した職員へ状況確認を行う

- 発症日（体調不良が始まった日）を確認する
 - 勤務状況を確認する（勤務日、就業場所、業務内容）
 - 発症から2日前に遡って接触した人を確認
 - 特にマスクを着用せずにケアにあたった利用者と、一緒に食事を取った（昼食、懇親会）職員は要注意
- 他に勤務している施設がないか確認
 - 業務を掛け持ちしている場合は、その施設へ連絡するように促す

施設職員が新型コロナウイルス感染症と判明した場合

- 施設職員が陽性となりました
 - 高齢者施設の職員が陽性となった旨をどこに連絡しますか？
 - 陽性の報告以外に、何を相談しますか？(ヒト、モノ、感染対策指導)

施設で感染が確定した旨を保健所へ連絡する

- 高齢者施設の職員が陽性であったことを報告する
 - **接触者リスト**を作成する(保健所より依頼される)
 - FAXで接触者リストを保健所と共有する
- 施設での**基本的な感染対策**について、電話で説明を受ける

- ✓ 職員のマスク着用と手洗いを徹底する
- ✓ 施設利用者・入居者もできるだけマスクを着用するように促す
- ✓ マスクを着用できない高齢者に対してアイゴーグル(またはフェイスシールド)を着用してケアを行う
- ✓ 濃厚接触者と有症状者はできるだけ個室にとどまってもらう

- 施設サービスの継続／中止について指示・アドバイスを仰ぐ
 - 感染の全体像がつかめない場合は、サービス中止も検討する

施設で感染が確定した旨を市町村へ連絡する

- 高齢者施設の職員が陽性であったことを報告する
 - 職員の陽性が判明し、複数名の濃厚接触者がいることを市町村へ報告する
- 職員の欠員のために不足した人手について、補充を相談する
 - 感染対策をしながらケアを行う介護従事者を市町村が紹介する

施設で感染が確定した旨を県コロナ対策本部へ連絡する

- 感染防護具の不足分について相談する（かかりまし経費は公費補助）
 - ・ 職員が陽性となったことによって必要数が急激に増加した際の感染防護具の不足分について、供給を依頼することができる（直接の担当は沖縄県子ども生活福祉部高齢者福祉介護課）
- 感染対策専門家の派遣、指導を依頼する
 - ・ 施設の構造、人員、リソースごとに実行可能な感染対策について感染対策専門家の派遣を要請することもできる
- 訪問看護師の派遣を依頼する（かかりまし経費は公費補助）
 - ・ 施設への看護師派遣を看護協会を通じて訪問看護ステーションを紹介してもらう

施設職員が新型コロナウイルス感染症と判明した場合

- 施設職員が陽性となりました
 - 職員に対して行うことは何がありますか？
 - 利用者へ行うことは何がありますか？

施設職員に対して行うこと

- 濃厚接触者と判定された職員は業務から離れて在宅勤務を行う
- 症状のある職員は休む（PCR検査を受検することが望ましい）
- 勤務可能な職員は、勤務前の健康チェックを毎日実施する
 - 体調不良時の連絡網について確認する
- 業務中は常にマスクを着用する
- こまめな手洗いを心掛ける
- 昼食は個人で取るようにする

施設利用・入居の高齢者に対して行うこと

- 濃厚接触者は共用スペースを利用しない
 - 通所サービスならば、担当ケアマネを情報共有し、**ケアプランの組みなおし**について相談する
 - 入居者に対しては**できるだけ個室療養**とし、体調不良が生じないか健康観察を行う
- 症状がある人への対応は保健所へ相談する
 - かかりつけ医など医療機関の受診を検討する（受診の方法について保健所からの指示を仰ぐ）
 - PCR検査の結果待ちまたは陰性だった高齢者は**個室で療養する**

PCR検査について

- 濃厚接触者や有症状者へのPCR検査
 - 県コロナ対策本部または保健所が地区医師会と協力し、施設へ訪問してPCR検査を実施することができる
 - 一度に検査する人数が多い場合は、感染している可能性が高い人や医療機関の受診が困難な高齢者を優先することもある

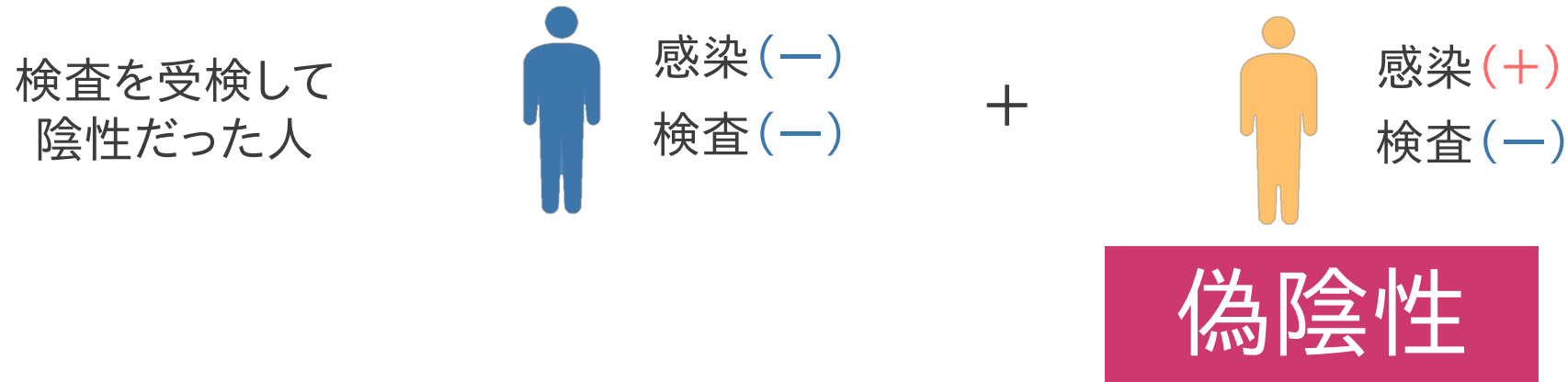
PCR検査とは

PCR検査はウイルスの遺伝子を検出する検査である。ウイルス遺伝子の数が少なくても、遺伝子を増幅することで検出することができるため、検出力の高い検査である。

しかし、PCR検査の精度は100%ではないため、PCRの検査結果が陰性であっても、新型コロナウイルスに罹っていないことの証明にはならない（検査の感度が100%ではない）。



検査が“陰性”でも「感染していないことの証明」にはならない

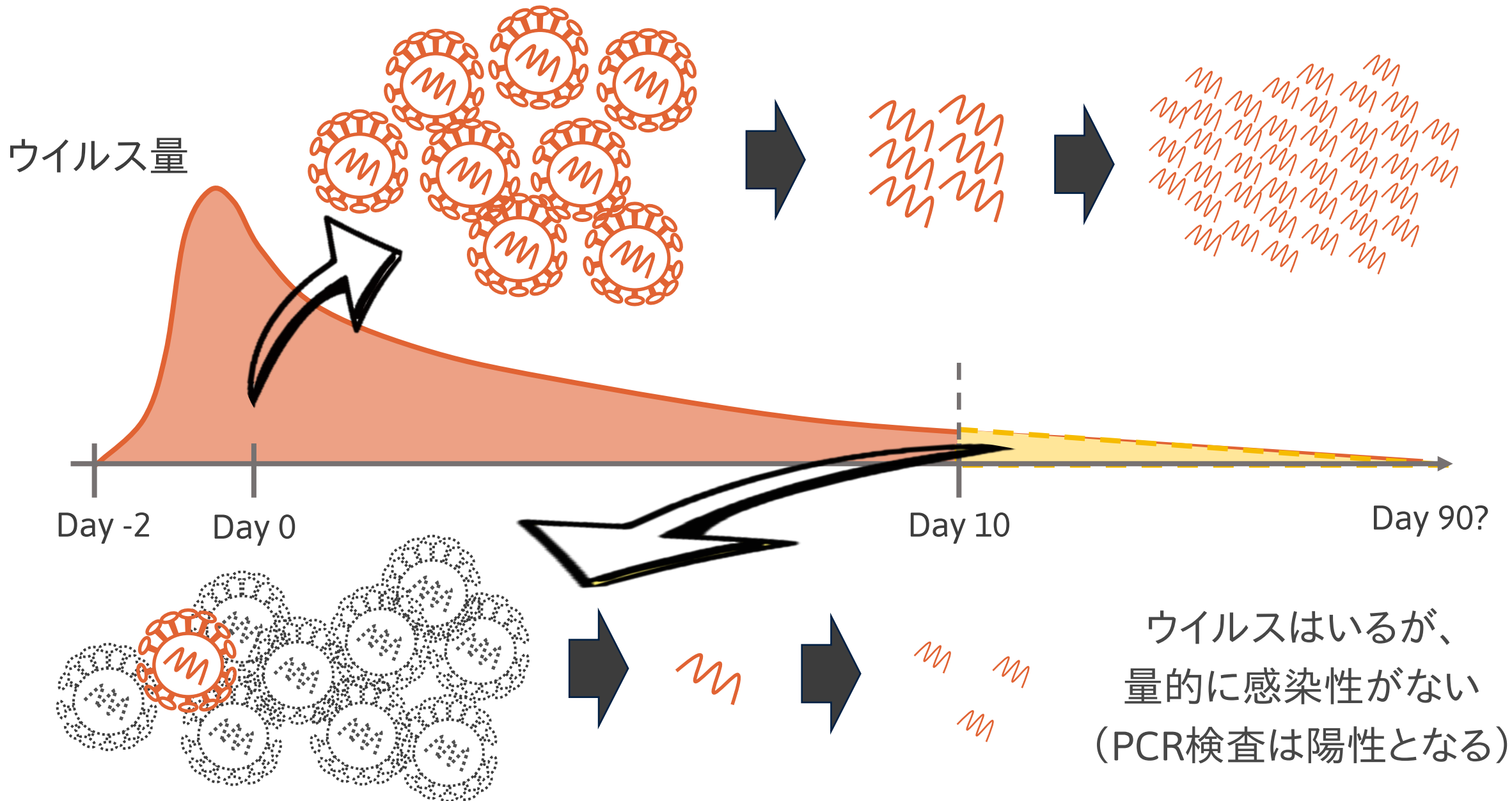


どのような検査でも偽陰性が存在する。

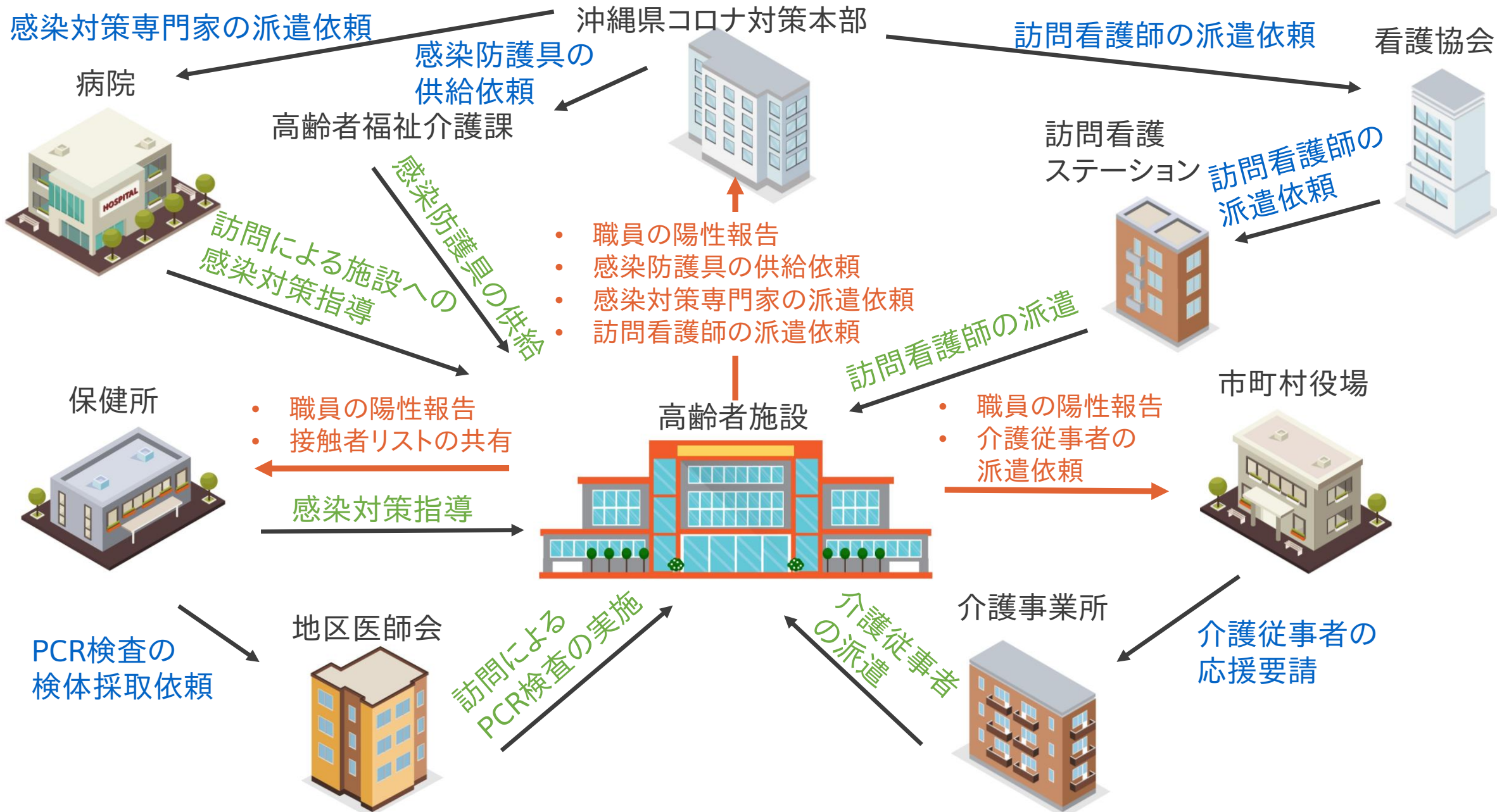
このため、「検査陰性」は「感染していないことの証明」にはならない。

濃厚接触者もしくは体調不良者は新型コロナウイルスにかかっている可能性があるため、それぞれ決められた期間、自宅で療養する。

発症から10日が経過すれば感染性はない



介護職員の陽性が判明したときの初期対応・連絡の概要



まとめ

- 新型コロナウイルスの感染対策は、換気、マスク着用、こまめな手洗いである。平時からウイルスを侵入させない感染対策を行い、職員や利用者の体調確認や体調不良時の体制・対応を構築しておく。
- 地域社会に開かれている高齢者施設はウイルスが持ち込まれるリスクが高く、日頃から新型コロナウイルス感染症が発生することを想定することも重要。ウイルスを持ち込ませない対策に加えて、高齢者施設内で陽性者を認めた場合に、感染を拡大させない対策も合わせて考える。
- 高齢者施設の職員または利用者で陽性者を認めた場合、その後の感染対策、必要物品や人員補充、疫学調査について保健所や感染管理専門家へ相談する。

ご清聴ありがとうございました

